



大地震に備えて、 ニュータウン地区の防災訓練を実施



黄色い旗を出した後、集合場所に集まって近隣住民の安否確認を行います

今年1月に発生した能登半島地震から間もなく1年。8月には日向灘、神奈川県西部を震源とする大きな地震が続き、今日発生するかもしれない「首都直下型地震」や「南海トラフ地震」等に備え、防災の重要性を改めて認識することになりました。

ニュータウン地区では、2024年11月9日(土)に、「7時50分に大地震が発生した!」ことを想定した防災訓練を実施しました。

まずは、7時50分に身の安全確保をするため「シェイクアウト」を実施。8時に各家庭が「黄色い旗」を掲示、続いて「災害時ご近所集合場所」に集合し近隣住民の安否確認、そして旗が出ていない家や災害時要援護者の方には声掛けし安否確認を行いました。「黄色い旗」を用いた安否確認訓練は、少ない人数で1秒でも早く助けの必要な人を見つけ、応援を頼むなど次の行動につなげるための取り組みです。訓練では旭中1年生も地域住民と一緒に安否確認をしました。

「黄色い旗」の取り組みは、2013年から町内会の中で徐々に広まっていったことを受け、連合町内会が取り入れました。2014年より防災訓練にて全員参加型の安否確認訓練として行うようになり、今年度はニュータウンの全11町内会で実施しました。



防災部の「出前講座」の様子

大地震が発生したら……この行動を。

- ①身の安全を確保する。
- ②揺れが収まったら火を止め、自宅を離れるときは、通電火災防止のためブレーカーを切る。
- ③在宅の家族が無事であれば、「黄色い旗」を外から見やすい場所に掲示する。
- ④災害時ご近所集合場所に集合する。
- ⑤手分けして安否を確認する。黄色い旗の出ている家の声掛けなど安否確認する。
- ⑥災害時ご近所集合場所のグループ単位の安否確認状況を、各町内会のいつとき避難場所に報告する。

旭中地域防災拠点運営委員会 ← 拠点設営訓



旭中の校庭に集まった参加者を前に、拠点運営委員会の委員長から開催のご挨拶

連合町内会の防災訓練に合わせ、11月9日(土)の9時から、旭中で避難所設営訓練を実施しました。運営委員は7時30分に集合。気温はギリギリ10°Cに届か届かないか。今一つ口が回らないし指先がしっくり動かないのは朝の冷気のせいですね。訓練の参加者は、住民82名、旭中生徒(1年)40名、中沢小児童(6年)58名の計180名。それに運営側関係者60名を合わせ、総数は240名です。

9時から始まった開会式の後、①仮設トイレ設置 ②スズランケーブル(照明設備)張り ③炊き出し訓練 ④段ボールベッド作成 ⑤本部室など担当ごとに分かれ訓練が始まりました。今年は少し慣れて来たのか各訓練とも“極めて”順調。今年の特徴は、いつも引っ込み思案の児童・生徒がとても元気だったことです。その元気パワーが訓練を先へ先へと進めて行ったようです。今年初めから相次いでいる日本各地の災害に危機感を持っているのかも知れません。

広報担当(生徒・児童)の報告書には、「ダンボールベッドの組み立てで仕切りの壁を設置する意味を担当者(生徒)が参加者に詳しく説明し、小学生にもしっかりと指示を出していた」とあります。9月に実施した生徒たちへ事前の訓練が功を奏したと思います。

最後に、訓練を取材してくれた広報担当者4名(生徒2名、児童2名)が作成した報告書を受け取りました。事前に「写真、いっぱい撮っていい？」の言葉どおり4台のカメラで彼女たちの目線で撮った素敵な写真が沢山収められていて、現在、担当教諭が内容を点検しています。彼女たちの写真は後日、FBにアップします。ご期待下さい。



体育館で簡易テント、段ボールベッドの組立訓練



プール揚水を利用した仮設トイレの組立訓練



炊き出しの訓練(おにぎり、ゆで卵)

<https://www.facebook.com/asahi.ac/>



訓練を実施 → 中沢小地域防災拠点運営委員会

中沢小学校地域防災拠点運営委員会では、毎年行われる防災訓練で、地震発生後48時間に必要となることを行っています。今年度は次の内容で11月9日(土)に訓練を実施しました。

①「受付訓練」

防災訓練開始時刻まで訓練参加の皆さんは、門外で待機。開始時間に開門し受付を開始することで、実際の大地震発生後の受付の混乱を再現することが出来ました。その結果、受付の問題点を見つけることのできたので、今後改善していきたいと思えます。

②「ポリ袋調理訓練」

鍋などを使用後に洗う必要のない「ポリ袋調理」で、お茶漬け海苔スパゲティを作りました。参加者全員が、ポリ袋に食材を入れ、袋の空気を抜いて口を堅く縛る手順を体験し、試食しました。

③「ハマッコトイレ組み立て訓練」

3月に配備されたハマッコトイレの組み立て見学と使い心地体験を参加の皆さんにさせていただきました。配備されたハマッコトイレは、初期の物より改良されて簡単に組み立てることができるようになっています。

④「口腔ケア訓練」

旭区歯科医師会防災担当の鈴木先生が作られたビデオを観ながら、参加者全員が30ccの水でできる歯磨きの方法を、My歯ブラシを使って体験しました。

⑤「エコノミークラス症候群防止マッサージ体験訓練」

厚生労働省のHPに載っている血栓予防マッサージのビデオを観ながら、全員で足のマッサージ方法を体験しました。

⑥「避難者カードの書き方訓練」

横浜市の避難者カードは記入項目が多く分かりづらいので、スライドを使って説明。避難者カードへの記入を練習しました。

⑦「トイレパックの使い方訓練」

備蓄倉庫にストックしているトイレパックと同じ物を使い、使い方の手順を体験しました。

今年度の防災訓練は、ハマッコトイレを除いて在宅避難でも役に立つ内容になっています。また小中学生や地域からの参加者全員が体験をしているので、大地震が発生した場合には、活用していただきたいと考えています。



避難者の受付訓練



ポリ袋で作った温かいお茶漬けスパゲッティ



ハマッコトイレ組み立て訓練



避難者カードの書き方訓練

権藤区長をお迎えして、 タウンミーティングを開催しました

二俣川ニュータウン地区タウンミーティングが9月7日(土)、連合町内会館で開催されました。会場には、権藤由紀子旭区長をはじめ、区のさまざまな部門の責任者の皆さんが出席。「防災」をテーマとして約50名の参加者と意見交換しました。

災害の発生を想定して様々な切り口から意見や質問が出る中、関心が集まったキーワードは「要援護者」でした。住民の高齢化に伴い、要援護者数の増加のみならず、支援者も高齢化しているという現実を見据え、真剣な議論が続きました。熱心にメモを取る参加者の姿も。

特に人工呼吸器などの医療機器を使用し、療養されている

方について、旭区側から「(自宅で療養が困難な場合には)地域防災拠点を通じて、区へご連絡をいただければ、受入れ可能な病院を調整する」などの説明がありました。地域と行政の協働が実感できた場面でした。

最後は権藤区長が、区役所と地域防災拠点、さらに福祉避難所などを含めた連絡体制強化などについて方針を説明し、締めくくりました。私たち住民としても、必要な知識を身に付け、いざ発災というときに向けて平素から備えることの重要性を再認識したいと思います。なお、タウンミーティングの主な内容は以下のとおりです。

- ①二俣川ニュータウン連合町内会として、災害時要援護者名簿は現在の同意方式(掲載に同意した人のみ載せる)から情報共有方式(掲載を拒否しなかった人はすべて載せる)に変更する予定である。(今後、区と調整予定)
- ②東京都練馬区の取り組みを好事例として、個々の要援護者名簿登載者につきケアマネジャーなどの福祉専門職の協力を得て個別避難計画策定を進めたい。
- ③自宅での避難、避難所での避難生活が困難な方については、①福祉避難所への避難 ②特養への緊急一時入所(介護認定を受けている方のみ)という仕組みがある。①は、各地域防災拠点に区の保健師等が巡回し、避難生活が困難な方に福祉避難所へ避難していただく調整をする。②は、ケアマネジャーから特養などの施設へ連絡いただく形となるが、ケアマネジャーと連絡が取れないなどの場合は、地域防災拠点を通じて区へ連絡をいただき、受入れ可能な施設を調整する。



権藤由紀子区長からご挨拶



区役所の各部署から参加の皆さん



参加した住民と区役所の間で質疑応答

<編集後記>昨年5月、連合町内会内に防災部組織が発足しました。今までは、ニュータウン地区には各種の関連組織(防災・福祉等)がありましたが、それぞれが独自に活動を行っていたため、横のつながりが希薄で、地域全体で見たときに十分な力を発揮できていない状態だったと思います。そこで昨年、各組織が有機的につながる連合の防災部が設置されました。発足して1年が経ち、少しずつ変化を感じます。発災時には防災拠点に避難する人もいれば、在宅避難する人も想定されるので、地域防災拠点と町内会が連携できるように、この防災部が各町内会向けに「出前講座」を実施するようになったのです。(小菅)

◆発行責任者 / 連合町内会 会長 山内良夫 社会福祉協議会 会長 出井善次

二俣川ニュータウン地区ホームページ

連合町内会 : <https://www.futamatagawa-newtown.com>

社会福祉協議会 : <https://fnt-shakyo.sakura.ne.jp/>

